

第2回 MD-PhD コース近況報告会を開催しました

医学部54期 石澤(井澤)有紀

平成29年2月18日（土）、第2回 MD-PhD コース同窓会および近況報告会を開催致しましたのでご報告申し上げます。

【第1部：同窓会総会】

本コースの卒業生・現役生9名が集まり、平成28年度の活動報告及び今後の活動計画について討議しました。活動計画の概要は以下の通りです。

- ・縦のつながりの強化：名簿の管理・進路の追跡，
報告会や交流会の開催
- ・卒業生のキャリア支援：徳島大学公募情報の共有
- ・学部学生の研究活動支援：報告会の学内公開，
Student Lab・Lab 部など学部教育との連携，医学部生を対象とした国内学術集会等への参加推進

最重要事項である現役生の支援については今後の検討課題となっています。大学院在学時の経済的支援や学部復帰支援などについて、本コースを志望する学生が安心して研究活動に集中できるよう、微力ながら支援策を講じていきたいと考えています。

【第2部：近況報告会】

今年も学内公開で開催し、数名の学部学生や教員の先生方にご参加いただきました。初めに、現在の徳島大学における MD-PhD コースの概要や支援制度、進学前後の医学部教育カリキュラムについて説明しました。また全国における本コースの設置・進学状況について紹介し、改めて徳島大学が全国でも稀にみる成功例であることを認識しました。

続いて、本年3月に博士課程を修了し医学科5年生に復帰した酒井遙介さんが『**霊長類レンチウイルスの分岐・進化：アクセサリー蛋白質 Vpx/Vpr に基づく系統樹解析**』のタイトルで学位研究成果発表を行いました。研究室配属期間に開始した研究を、その後3年間の大学院生活でまとめ上げた経緯を紹介してくれました。さすが、すっかり研究者の胃禄

です。その後、現役院生は研究の進捗状況やラボでの様子を、また卒業生は学部復帰後の様子や研修医としての日常、今後の進路について紹介してくれました。中でも川添僚也先生が経験した希少疾患に関する症例報告は非常に興味深く、リサーチマインドが診療においても重要であるという実例を示してくれました。最後に、残念ながら欠席された荻野広和先生(56期・徳島大学呼吸器膠原病内科学分野)からの熱いメッセージを代読して第2部が終了となりました。出席してくれた学部学生からは、「MD-PhD コースの出身者が臨床医として働いているとは知らなかった」「意識の高い先輩方の話を聞いて刺激を受けた」などの感想をいただきました。

その後場所を移し懇親会を開催しました。大学院生活、復学後の実習、全国の研修病院、今後の進路などに関して情報交換を行い、有意義で楽しい時間を過ごしました。

【参加者現況（2017年4月現在）】

石澤有紀 (54期)

徳島大学大学院医歯薬学研究部
薬理学分野 講師

川添僚也 (55期)

国立精神・神経医療研究センター



神経内科 上級専門修練医
 赤池瑤子 (62期)
 倉敷中央病院 初期研修医
 西 晃 (63期)
 国立国際医療研究センター病院
 初期研修医
 狩野静香 (医学科 6 年) 徳島大学医学部医学科
 酒井遙介 (医学科 5 年) 同上
 藤本将太 (博士課程 3 年) 消化器内科学
 西條早希 (博士課程 2 年) 病態生理学
 河本知大 (博士課程 1 年) 人類遺伝学

この度「徳島発 Physician Scientist への道」

と題し、徳島大学医学部公式サイト内に本コースの概要を解説する専用ページが設けられました (<http://www.tokushima-u.ac.jp/scme/MD-phD/>)。その名の通り、世界に通用する Physician Scientist を目指す学生にとって、本コースが魅力的な選択肢の一つであることを広く発信していく所存です。

最後になりましたが、青藍会の先輩諸先生方には日頃より格別のご支援を賜り、心より感謝申し上げます。これからも我々徳島大学 MD-PhD コース同窓会会員は、医学への純粋な好奇心と向上心を胸に精進して参ります。引き続きご指導ご鞭撻いただきますよう、何卒宜しく願い申し上げます。

